

大切なパートナー

もう ひとつ けん
盲導犬



白のハーネス（胴輪）をつけた盲導犬は、使用者である視覚障がいのある人の行く先にある障害物などの存在を知らせ、安全に歩行できるよう補助を行います。盲導犬は、ペットではなく、使用者にとって大切なパートナーであり、盲導犬に、食べ物を見せたり、与えたりしてはいけません。使用者と盲導犬の関係に影響が出る可能性があるからです。もし、盲導犬を連れた使用者が、道に迷っているなど、困っている様子を見掛けたら、使用者に手助けが必要か声掛けをお願いします。

視覚障がい

全く見えない人と見えにくい人がいます。見えにくい人の中には、細部がよく分からない、光がまぶしい、暗いところで見えにくい、見ることでできる範囲が狭いなど、さまざまな状態があり、また特定の色が分りにくい人もいます。

視覚障がいのある人は、目からの情報を得にくく、音声や手で触れることなどにより、情報を得るようになります。そのため、慣れていない

場所では、一人で移動することが難しく、また、文字を読むことや記入することも難しくなります。



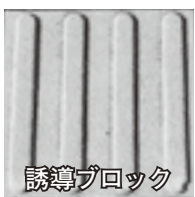
▲9月30日に手をたずさえて行った避難訓練

視覚障がいのある人を誘導する場合は、「こちら」や「それ」などの指示語を使わず、場所であれば「2歩前」、「50センチ右」など、具体的に説明しなければ分かりません。場合によっては、物に触れてもらうことが必要な場合もありますが、周りの状況が分からないため、突然体に触れることはせず、了解を得た上で、手を添えて行うなどの配慮が必要となります。

重要な道しるべ

『点字ブロック』

公共施設や道路などで、視覚障がいのある人が安心して移動できるように設置された点字ブロックには、進行方向を示す『誘導ブロック』と



受講団体募集

手話を学んでみませんか
初心者手話講習会

市は、市民の皆さんに手話への理解と普及を図り、手話の使いやすい環境をつくることを目的に、初心者手話講習会の受講団体を募集しています。

手話に興味のある方、手話を学んでみたい方はお気軽に問い合わせください。

内容 希望する日時に講師が伺い、あいさつや簡単な日常会話などの手話を、初歩から楽しく学んでいただけます

※会場は、申込者で用意いたします。開催希望日の2週間前までに、障がい福祉グループに備え付けまたは市公式ウェブサイトに掲載している申込書に必要事項を記入し、障がい福祉グループ（FAX050-3730-8230）に持参またはファクス

申し込み



聴覚・言語障がい

危険箇所や誘導対象施設などの位置を示す『警告ブロック』があり、横断歩道や階段の前、駅のホーム端などの地面や床面に敷設されています。視覚に障がいのある人が、足の感覚でも認識できるように表面に突起を設けていますが、皆さんは点字ブロックの上に荷物や自転車などを置いたことはありませんか。

『音声機能の障がい』があります。聴覚・言語障がいのある人は、音や声による情報が得にくく、文字や図などを見て、情報を得ています。外見では、聴覚に障がいのあることが分かりにくいいため、声を掛けたのに反応しないと誤解されることがあります。

聴覚障がいには、『ろう』や『中途失聴』、『難聴』があり、言語障がいには、『言語機能の障がい』や

まず、本人の視界に入った上で、手話や筆談、指文字など、どのようなコミュニケーション方法が良いか確認することが大切です。また、補聴器をつけていたとしても、明瞭に聞こえているとは限らないため、会話の際には、口の動きが分かるように、はっきり、ゆっくり話すことで、声だけではなく、視覚により会話の内容を伝えることができます。